大府もちのき特別支援学校　相談支援部

2023年８月

自立活動だより

今回の自立活動だよりでは、６月末に本校職員を対象として実施した自立活動選択研修会についてお伝えします。

前半は昨年度、本校で実践されていた自立活動の時間における指導の様子を動画で見ました。

【自立活動室】

太鼓橋を四つばいで渡ります。

二本の橋をバランスを取りながら歩きます。

巧技台などを使って身体を動かしながらバランスのとり方や体の動かし方を身に付けます。

【教室　集団編】

手本動画を見ながら一人でバランスボールを使って身体を動かします。

目の前で紙コップに隠されたものを探します。紙コップを動かすので見続ける力が必要です。実態に応じて、紙コップの数を変えたり動かす速度を変えたりすることができます。

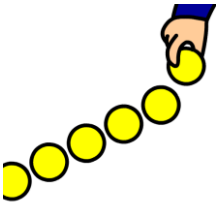
友達と一緒に双六を行います。さいころを友達に渡したり順番を守ったりして人との関わりを身に付けます。また、出た目の数を数えて自分の駒を進めるという活動の中にもいろいろな要素が含まれています。

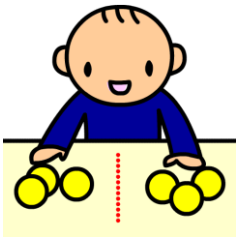
【教室　個別編】

手本の写真を見ながら、同じようにつなげていきます。手本を見る力や同じように作っていく力等を身に付けます。

フックに輪になった紐を一つずつ掛けていきます。手指の巧緻性や見る力などを身に付けます。色の付いたフックや紐を使うと、色の弁別の力も身に付けることができます。

プラダンに綿棒を一本ずつ入れていきます。手指の巧緻性や力加減、見る力等が身に付きます





先生方が参考にされている本

「TEEACH プログラムに基づく
自閉症児・者のための自立課題アイデア集」
林　大輔　著　　中央法規

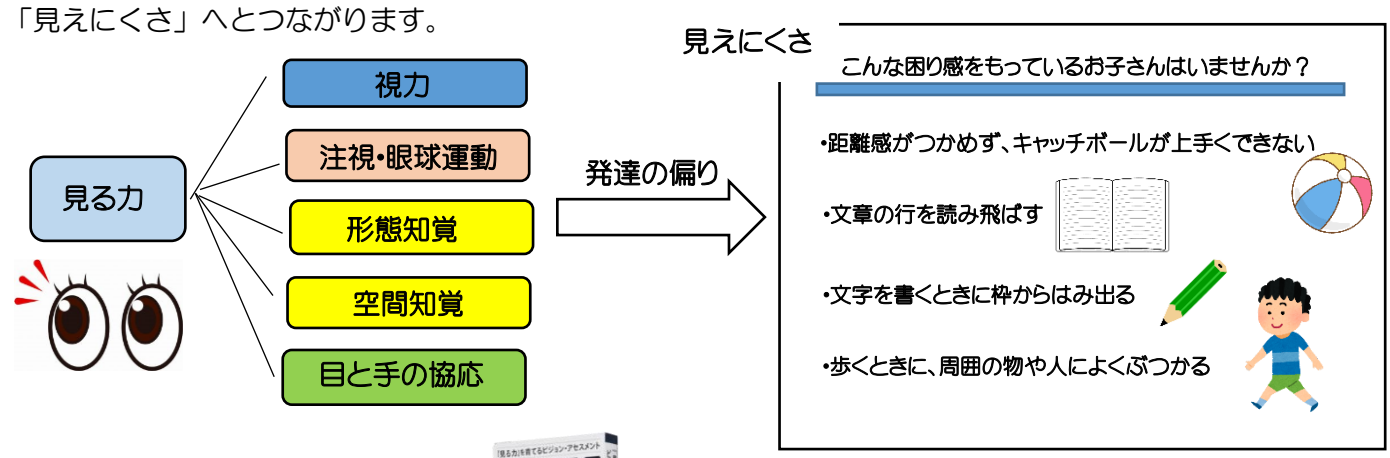
「教材共有ネットワークを活かした発達支援
誰でも使える教材ボックス」
高橋　浩　他　著　　学苑社

他にも、SST ワークシート、ソーシャルスキルトレーニングの本等も活用されています。

後半は、「WAVES」の一部を体験しました。

「WAVES」とは、「Wide-range Assessment of Vision-related Essential Skills（視覚関連基礎スキルの広範囲アセスメント）」の略で、「見る力」を育てるビジョンアセスメントです。

「見る力」は、視力、注視・眼球運動（一点を注視したり、素早く視線を移動させたりする力）、形態知覚（形をまとまりとして理解する力）、空間知覚（見ているものの位置を把握する力）、目と手の協応（目と手を連携させて動かす力）が互いに影響し合っています。これらの力の発達に偏りがある場合、「見えにくさ」へとつながります。



実際に WAVES に取り組んだ先生たちからは、「難しい！」「目が疲れてきた…」などの声があがっていました。

実際に体験をすると解説書の説明がより分かりやすく、理解しやすくなります。興味がありましたら、実物を一度ご覧になってみてください。

参考文献

『教室・家庭でできる「見る力」サポート＆トレーニング　発達障害の子どもたちのために』
著書　奥村智人、発行者　荘村明彦、発行所　中央法規出版株式会社
『発達障害の子のビジョン・トレーニング』
監修　北出　勝也、発行者　鈴木　哲、発行所　株式会社講談社